

だが、今から考えると、十六から十八までの一ぱん感覚の新鮮な時代、暇を見つけては雑読したことが、今日ではかなり役に立っているように思う。

どんなにリアリズムであろうとも、その奥に詩情がなければいかんと思う。そこに小説の奥深さという心が揺すられるものがあるんです。

人生には卒業学校名の記入欄はないのである。

私は独り旅が好きである。

(中略)一切の煩わしさを離れて、遠い土地をさまようことにより、自己を凝視し、観照できる。

美しい文章より
真実の文字を

特別企画展

松本清張と 井上靖

新進作家と
目標の星

光陰は矢のようだ。しかし、人生の山読書の楽しさを知ること、河はいかに荒寥たるものであろうと、充知らないことでは、人間の一生がま分走り切るに価値があるものだ、力をこめて、バトンを渡したいと思うのである。

幸福は求めない方がいい。
求めない眼に、求めない心に、
求めない体に、求めない日々、
人間の幸福はあるようだ。

私は旅の話が一番好きだ。

正確なもの美しく見える。
だけが美しく見える。

(中略)紀行文とか、旅行記とかいったものを読む楽しさは、実に特別なものであり、そうした書物の頁をあけている時が、ある意味で、人間の持ち得る一番贅沢な時間だろうと思う。



昭和28年頃 大井滝王子町の書齋にて [写真提供]長泉町井上靖文学館

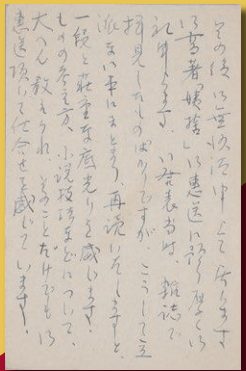


昭和32年1月頃 書齋にて [写真提供]西日本新聞社

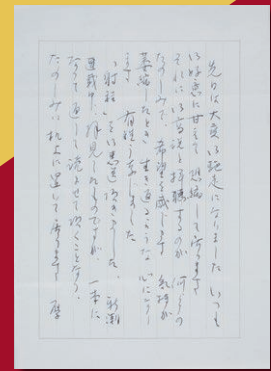
Letters

名言を人生のレガシーに。

初公開!!
井上靖宛 松本清張書簡



昭和31年 県立神奈川近代文学館所蔵



昭和32年 県立神奈川近代文学館所蔵

令和6年
10月5日(土) - 12月1日(日)

会場 | 松本清張記念館 企画展示室
主催 | 北九州市立松本清張記念館 特別協力 | 長泉町井上靖文学館(静岡県)

[開館時間] 午前9時30分~午後6時(入館は午後5時30分まで)
[入場料: 常設展示観覧料を含む] 一般 600円 [480円] / 中・高校生 360円 [280円]
小学生 240円 [190円] []内は30名以上の団体料金
[休館日] 毎週月曜日(月曜日が休日の場合は翌日)・館内整理日(10月31日、11月28日)
〒803-0813 北九州市小倉北区内2-3 TEL.093-582-2761 FAX.093-562-2303

松本清張ゆかりの品をお持ちの方は、記念館までお知らせください。



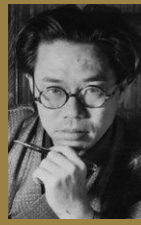
松本清張と井上靖

新進作家と
目標の星

第I章 松本清張と井上靖

松本清張と井上靖には意外なほど共通点と接点がある。

1907(明治40)年生まれの井上と1909(明治42)年生まれの清張は、学歴に違いはあるが、共に新聞社に勤務している。井上は大阪毎日新聞社で学芸(美術)記者をし、清張は朝日新聞九州支社で広告版下を描いた。共に遅い出発の芥川賞作家でもあった。こうした共通性は、清張に井上靖への親近感を覚えさせた。



松本清張



井上靖

1909(明治42)年12月21日、福岡県小倉で生まれた。幼少期を山口県下関市で過ごした。尋常高等小学校を卒業後、印刷所勤めなどを経て、朝日新聞九州支社に広告版下工の職を得る。衛生兵として朝鮮半島に従軍した。

1953(昭和28)年、「或る」小倉日記「伝」で芥川賞を受賞した。「点と線」などの社会派推理小説がベストセラーとなった。その後ノンフィクション「日本の黒い霧」、現代史「昭和史発掘」、古代史「古代史疑」など新分野を開拓していった。

1992(平成4)年8月4日死去。享年82。

1907(明治40)年5月6日、北海道旭川で生まれた。幼少期は戸籍上の祖母と二人で伊豆湯ヶ島で暮らした。第四高等学校(金沢)では柔道と詩に打ち込んだ。京都帝国大学哲学科を卒業後、大阪毎日新聞社へ入社し、美術・宗教欄を担当する。

1950(昭和25)年、「闘牛」で芥川賞を受賞した。「しろばんば」などの自伝的小説や、現代小説「氷壁」、歴史小説「天平の薨」、西域物の「敦煌」、最後の小説「孔子」など、幅広い作品を創作した。

1991(平成3)年1月29日死去。享年83。

第II章 新進作家の目標の星

新進作家の松本清張はある「あとがき」で、「実際、私は井上靖の出現がなかったら、何を目標にして作品を書いていいかわからなかった。井上氏によって私の行く道は決定した」と述懐している。清張は井上氏の「面白い小説」を指標とし、「闘牛」「通夜の客」「漆胡樽」(「情誼」)のような小説を書きたい目標にしたのであった。

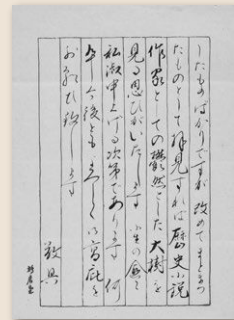


▲『風雪』 松本清張
昭和31年11月 角川小説新書

井上靖「人間の正しさ」

第III章 初公開 清張の書簡——私淑と御祝

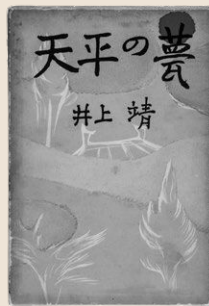
松本清張が井上靖に宛てた書簡が神奈川県近代文学館に8通所蔵されている。内5通は今回初公開である。1954(昭和29)年の書簡には、歴史小説作家として井上靖を模範として慕う(私淑)の思いが述べられている。1957(昭和32)年の書簡には、清張が井上家で(御馳走)になり、井上の(御高説)を拝聴するのが(何よりのたのしみ)だと綴っている。



井上靖宛清張書簡(昭和29年4月17日消印)
県立神奈川近代文学館所蔵

第IV章 最後の手紙——長らく御無沙汰して

両作家はある時期を境に、それぞれの道を歩き始める。井上靖は1957(昭和32)年に歴史小説「天平の薨」で新境地を開き、同年松本清張は「点と線」「眼の壁」を書き、社会派推理小説ブームを起こした。1964(昭和39)年に井上は日本芸術院会員となり、同年清張は代表作「昭和史発掘」の連載を始めている。1990(平成2)年、清張は20年ぶりに井上靖に書簡を送った。



「天平の薨」
井上靖 昭和32年12月 中央公論社

特別展示 special exhibition



松本清張記念館所蔵

両作家が関心を寄せたガンダーラ仏

ご来場記念

松本清張・井上靖の

「名言しおり」プレゼント!

特別企画展 謹製

2人の国民的作家が遺した名言を記した特製しおりを、くじ引きでご来場者の方全員にプレゼントいたします。あなたの人生を照らす「名言」を引き当ててください。

※無くなり次第終了いたします。※しおりのデザインはイメージです。



長泉町井上靖文学館

所在地: 静岡県駿東郡長泉町東野515-149
電話: 055-986-1771



長泉町井上靖文学館公式Instagramはこちら▶

代表作『あすなろ物語』の中で、主人公が詠む「寒月ガカカレバ キミヲシヌブカナ アシタカヤマ(愛鷹山)ノフモトニ住マウ」という歌にちなみ、1973(昭和48)年に長泉町に開館した。原稿や万年筆などの愛用品を含め、約3000点の資料を所蔵。2021(令和3)年4月に長泉町営となる。本年9月21日(土)~令和7年3月11日(火)、「井上靖と松本清張 作家の視点」展を開催。

井上靖記念館

所在地: 北海道旭川市春光5条7丁目
電話: 0166-51-1188



井上靖記念館ウェブサイトはこちら▶

井上靖が旭川で生まれたことを記念して、1993(平成5)年に開館した。自筆の取材ノートをはじめ、直筆原稿、愛蔵品など、83年の生涯を紹介する貴重な資料を展示している。また、応接間や書齋が東京・世田谷の旧井上靖邸から移転され再現されている。

北九州市立 松本清張記念館

〒803-0813 北九州市小倉北区内2番3号
TEL.093(582)2761 FAX.093(562)2303
URL: https://www.seicho-mm.jp



JR...小倉駅より徒歩15分 西小倉駅より徒歩5分
バス...小倉城・松本清張記念館前下車 車...北九州市高専・大手町ランプより5分